

-概況-

10月の前年同月比DI値は、「在庫」以外は8指標が上昇した。主要3指標は「売上高」は+3.8ポイント、「収益状況」は+7.7ポイント、「業界の景況」も+9.6ポイントといずれも上昇した。

製造業では、「食料品製造」「窯業・土石」が好転した。イベントなどの回復が反映されているようだ。一方、「印刷業」はインボイス制度開始による一時的な需要も収まり低迷している。

非製造業では、「小売業」「サービス業」「運輸業」が比較的好調だ。「卸売業」「建設業」は悪化している。

行楽シーズンの到来に伴い、観光・各種イベントに関連する業界は好転が見られ、県内全体の景況も小幅な改善を示している。しかし、止まらない原材料・燃料価格の高騰で、すべての業界が依然として収益を圧迫され続けている。価格転嫁できているのは一部に過ぎず、業種・企業によっても偏りがあるようだ。深刻な人手不足が大きな問題となっており、受注量・仕事量の抑制に繋がっているケースも見受けられる。高齢化問題、後継者不足、賃上や労働時間短縮などへの取組に加え、中東情勢の緊迫化や為替動向などによる海外経済の動きに対する不安の声も多数上がっている。

図表1 【業種別・指標別DI値一覧表】

	売上	在庫	価格	条件	収益	資金	設備	雇用	景況
食料品製造	50.0	-25.0	50.0	0.0	-25.0	-25.0	25.0	0.0	0.0
繊維・同製品	50.0	25.0	50.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0
木材・木製品	-25.0	-50.0	25.0	0.0	-25.0	0.0	0.0	25.0	-50.0
印刷	-100.0	0.0	100.0	0.0	-100.0	0.0	0.0	0.0	-100.0
窯業・土石	25.0	-25.0	50.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0
鉄鋼・金属	25.0	-25.0	0.0	0.0	-25.0	0.0	25.0	25.0	0.0
一般機器	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0	25.0	25.0	0.0	25.0
製造業	20.0	-12.0	32.0	0.0	-4.0	4.0	12.0	8.0	-4.0
卸売業	0.0	-33.3	33.3	0.0	-33.3	0.0		-33.3	33.3
小売業	-42.9	-28.6	-14.3	-28.6	-71.4	-14.3		14.3	-57.1
サービス業	-33.3		66.7	0.0	-33.3	-33.3		0.0	0.0
建設業	20.0		40.0	0.0	-20.0	0.0		-20.0	-20.0
運輸業	0.0		0.0	0.0	25.0	0.0		-25.0	25.0
その他	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0
非製造業	-14.8		-30.0	22.2	-7.4	-29.6	-11.1	-7.4	-11.1
全体	1.9	-17.1	26.9	-3.8	-17.3	-3.8	12.0	0.0	-7.7

	4年			5年										前月比
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
売上高	9.6	11.5	-5.8	-7.7	-7.7	7.7	15.4	5.8	15.4	3.8	-1.9	-1.9	1.9	3.8
在庫数量	5.7	5.7	-5.7	2.9	2.9	-2.9	5.7	0.0	-8.6	-11.4	-11.4	2.9	-17.1	-20.0
販売価格	36.5	34.6	30.8	23.1	25.0	36.5	30.8	36.5	34.6	30.8	19.2	23.1	26.9	3.8
取引条件	-7.7	-11.5	-7.7	-11.5	-9.6	-11.5	-9.6	-7.7	-13.5	-15.4	-11.5	-11.5	-3.8	7.7
収益状況	-23.1	-26.9	-28.8	-48.1	-32.7	-28.8	-7.7	-11.5	-23.1	-17.3	-28.8	-25.0	-17.3	7.7
資金繰り	-15.4	-21.2	-21.2	-30.8	-17.3	-19.2	-9.6	-11.5	-15.4	-11.5	-13.5	-11.5	-3.8	7.7
設備操業度	4.0	12.0	0.0	-4.0	-8.0	-8.0	-0.0	-0.0	8.0	12.0	-20.0	0.0	12.0	12.0
雇用人員	-3.8	-5.8	-3.8	-1.9	-3.8	-7.7	-3.8	-7.7	-5.8	-7.7	-9.6	-5.8	0.0	5.8
業界の景況	-13.5	-17.3	-23.1	-17.3	-19.2	-15.4	-5.8	-11.5	-5.8	-3.8	-19.2	-17.3	-7.7	9.6

特記事項

情報連絡員報告（令和5年10月分）

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
食料品	和洋菓子製造業	昨年は、県内において国体等のイベントがあり、各店によって幾分影響があったと思われる。また、いまだに原材料の値上げもあり厳しい。
	めん類製造業	原料・資材・コストの上昇に伴い価格転嫁もできて良い反面、販売数量の減少になっている仲間もいる。県内観光地への人出はあるが、売上が伴っていない地区もある。中には、前年比125%の売上を計上し、工場が手狭になり新工場を検討している仲間もいる。伴って作業人員も増員中との事。人員の確保はどの仲間も苦勞している現状だ。同業種でも、地域や販売先により、好不調・優劣の差が大きくなってきている。コロナ後は、対応力の差で大きな差がついている状況が見えてきた。
繊維工業	縫製業	秋冬物の生産が終了し追加リピート商品のオーダーが入る時期だが、客先に確認すると、今年の長引く気温上昇及び暑さの影響で、商品の販売が大幅に下がっている状況だ。11月度の生産に大きく影響する状況になっており困っている。
	絹・レース・繊維粗製品製造業	春物の現物オーダーが入り始めた。業界全体的には、まだ静かな様子。昨年、一昨年に比べれば、まだマシというところか。新たな国際問題となっているイスラエルの動向を心配している。紛争が拡大した場合、西側諸国と中東との新たな対立を生み、結果として石油高騰や燃料費高騰、物価上昇を招き、持ち直しつつある景気を押し下げるので、早めの解決を期待したい。
木材・木製品	一般製材業	高圧電力価格が安定してきたため、工場稼働にかかる負荷が低減している。また、新築住宅受注が若干上向いている。
	家具・建具製造業	売上高は増加とする企業も増えつつあるが、全体的には不変推移が多数。販売価格は上昇するも製造コストの転嫁が不十分であり、収益状況は好転しない。総じて景況感悪化する先が多い。
印刷	印刷業	各種イベントや観光関連等の需要は出てきているがコロナ前に比べ低調。インボイス制度関連の伝票需要は一巡した。
窯業・土石製品	石灰製造業	鉄鋼向け・建材関係は、昨年に比べ増加した。肥料関係は、昨年に比べ価格変更の影響などにより減少した。全体では、昨年に比べ若干減少した。
	陶磁器・同関連製品製造業	10月に入り組合員の陶器生産が増えている。益子粘土の生産もフル回転しており、その他購買品の売上も順調だ。観光客が平日にも訪れるようになり、販売店も賑わっている。陶器市の準備も進んで賑やかである。
鉄鋼・金属	金属製品製造業	自動車部品は生産量が戻りつつあるが、世界情勢と円安がどこまで影響するのか先行き不安である。自動車金型関連は見積もり案件が出るが、なかなか決まらない。労働基準監督署の調査があった。人手不足や物価高の今日、有給取得や残業規制などの確認をされたが、中小零細はどう対応したら賃上げなどできるというのか。家族内のインフルエンザ感染が増えている。市内飲食店も夜の客が減少しており、地方は厳しいとの声がある。
一般機器	一般機械器具製造業	前年同月と比較し大多数が前年同様の報告だ。相変わらず仕入れ資材の高騰懸念も続いており、消耗品等に関しても同様の懸念がある。これに対し販売価格の転嫁はと言うと、少しずつではあるが転嫁出来ている企業があり、企業間でまちなちといった状況だ。収益状況についても全般的に不変といった企業が多く操業度（稼働）についても、ほぼ前年同様の結果報告であった。相変わらず人手不足が予想され、さらに技術者については将来深刻な状況になるのではと懸念している。
	一般機械器具製造業	景況の状況は業種によってバラバラで建設業などは活況のようだ。しかしながら、製造業はあまりぱっとしない。原因は、円安状態の長期化により物価高が止まらないからだ。しかも政府の政策が見えない。中東情勢の緊迫化が不透明にしている。早くアベノミクスの失敗を認め総括する時ではないかと考える。

卸売業	化粧品卸売業	同じ仕入先で2回目の値上げをしていくところが徐々に増えてきた。1回目とは違う材料を使用する商品のため、言い換えると、ある時点と比較して値上げしていない商材の方が少ない状況だ。また、商品のライフサイクルが短くなってきたように感じる。
	各種商品卸売業	業種・取扱商品によって流通量の増減に差がある。燃料価格は補助金により価格上昇は落ち着いたが、未だ高値が続いており、物価高騰と相まって収益を圧迫している。従業員の人員確保が難しい。(募集をかけても集まりにくい。)
小売業	各種商品小売業	10月に入ってもまだまだ暑い日が続き、秋冬物の動きが非常に鈍い状況が続いている。さらに好天に恵まれた結果、全体の客層も大幅に落ち込んでしまった。市内でも多くのイベントが行われ、客が流れてしまっている。
	花・植木小売業	輸入花材の入荷が減った。菊など葬儀用の花材の入荷も減少。花材全般、高値が続いている。葬儀が増える時期なので不安だ。
サービス業	給食センター	物価高、最低賃金上昇により、利益を圧迫されている。商品値上げも行っているが、追いついていない状況。人員の見直しを行い、欠員補充を行わないでも済むようどうにか工夫しているが、厳しい状況が続く。資金繰りに関しては消費税支払い月は特に厳しい。
	旅館・ホテル	10月の業況は前年度比でほぼ横ばいとなった。温泉街の人出も徐々に戻りつつある。一方で、老舗の八百屋さんが閉店し、宿の仕入れに影響が出ている。なお、紅葉は温暖化でいまひとつだが、11月の連休はほぼ満室の予約となっている。スキーシーズンについては、暖冬が予想されるので期待できない。
建設業	職別工事業	内装業界において、例年10月は業績が低迷する時期であり、今月は前年同様の実績となる。依然、人手不足の状況が続いており、また、業界の高齢者問題も懸念される状況にある。
運輸業	貨物自動車運送業	日用品等の配送については増加しているが、工場からの出荷量が減少しているためトラックの稼働率が悪い。当組合の保管庫についても入出荷量に波がある。自動車部品梱包を手掛ける組合員では、自動車メーカーの一時的なライン停止により出荷量が減少している。
	貨物軽自動車運送業	インボイス制度開始により、新規のお客様が多少なりとも増加した。県内の精密機器関連メーカー様からの依頼が多く、この勢いのまま年末まで続くことを願う。インボイス制度に伴い廃業する組合員も数名おり、非常に残念である。
その他の非製造業	大谷石採石業	大谷石業界には大きな変化はない。近隣観光施設には外国人が多く見られた。